



反戦歌

反戦フォークの名曲『戦争を知らない子供たち』がヒットしたとき世に賛否が渦巻きました。戦後生まれの若者がやさしく平和を訴える内容に旧世代は『甘さ』を感じたのです。こういう歌で戦争を語れるか、戦争はもっと苛烈なものだという思いがあったのでしょうか。曲が生まれたのは1970年。戦後はまだ25年です。かたや、ギターを奏でる若者たちとて戦場の悲惨、空襲の恐怖を聞いて育ちました。戦争への怒り自体は社会が共有しているなかでこの歌は議論を呼んだに違いない。さて、それからまた半世紀・・・。景色の変容はすざましい。日本維新の会の丸山穂高参院議員が、北方四島ビザなし交流で国後島を訪れたさいに元島民らに「戦争で島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか」。「戦争しないとどうしようもありませんか」。酔っていたらしいが言い訳にはなりません。当年にとって35歳。この『戦争を知らないお子さま』に戦慄され覚える。東大経済学部卒、経産省へ、松下政経塾でも学んだ人です。そんなエリートの倒錯が痛ましく、反戦歌を歌いつつ戦争を風化させた歳月が悔しい。丸山さんは維新を除名されました。議員辞職を求める声も強いが、辞めないという。ならば妄言を記憶にとどめるための反面教師として、みなが目凝らし続けるしかないのかな。

都商会 鎌野



黒部ダム

ライオンズクラブの複合地区大会で富山県に行ってきました。富山県に泊ったのはおそらく初めてでしたが、やはり海産物が美味しい町でした。白海老が絶品でしたね。白海老の昆布締め鮓が特に美味しかったです。生姜醤油でいただきました。そしてもちろん、富山ブラックもいただきました。真っ黒いスープですが、意外にさっぱり系で、お酒を飲んだ後に最適でした。さて、翌日は総勢15名で立山黒部アルペンルート観光でした。子供の頃に黒部ダムには1度行ったことはあったのですが、おそらく長野側から登り、そのまま戻るというコースだったと思います。しかも、小さかったのでほとんど覚えていませんでした。今回は45年振りの黒部ダムでしかも有名な「雪の大谷」も見られるということで、楽しみにしていました、本当はこっちがメインの目的で参加しました。雪の大谷までは、ケーブルカー、バスを乗り継いで一時間半、当日は5月だというのに日本中が猛暑で、北海道で39.5℃を記録した日でした。さすがに雪の大谷は涼しかったです、雪の照り返しが強くて汗かいました。一番高いところで13mの高さの雪が残っていましたが、既に1/3ぐらい溶けてしまった状態ということだったので、今年ももとは20mくらいの高さがあったのではないかと思います。6月中旬まで雪は残っているようですが、どんどん小さくなってゆきます。観光客の多くは中国・韓国・その他アジアの方々でしたが、年配の日本人の方も多くいましたね。雪の大谷からトンネルバス、ロープウェイ、地下ケーブルカーと乗り継いで黒部湖、そして徒歩で黒部ダムです。ダムマニアの友人からダムカードを貰ってきて頼まれていたので、ダムカードをゲット。黒部ダムからの帰りのトロリーバスの券を見せれば、ただでいただけます。大自然を堪能した一日でしたが、乗り物の乗り継ぎが多くしかも混雑のため、待ち時間の方が長いので、本当に朝から夕方まで一日がかりです。死ぬまでに一度観れてよかったです。

英樹



配り

第240便

勝亦製材駿河鉄骨樹

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 静岡県市中山518番地



春雷の遠鳴り暗にせかす如

遅々とすすまぬ吾が断捨離を

勝亦 りつ子

隅田川クルーズ船に観る桜

兩岸の眺め娘とみる幸

林 なをみ





カメラライフ近況

御殿場の春はカメラマンにとってはうずうずと落ち着きの無くなる季節なのです、特に夕暮れ時に。春、田んぼに水が入ると、依然白い衣装をまとった富士山が水面に映り逆さ富士が撮れます。さらに御殿場地区以東では太陽が山頂に沈むダイヤモンド富士が観測でき、気象条項やタイミングが合えばダイヤモンド富士が田んぼに映り込むダブルダイヤモンド富士が撮れるのです。さらにその後真っ赤な燃えるような夕焼けが現れたり・・・

こうなると晴れて夕焼けになりそうな日は気もそぞろ。仕事も手につかない（いや、本当は仕事は真面目にやっていますよ？）だいたい18時位が日没となるので仕事を一気に片付けて、ダイヤになるであろう撮影地へと急ぎます。ダイヤモンド富士が観測できる場所は太陽と富士山の位置から直線状に並びます。その中から田んぼに富士山が映るポイントは限られているのでおのずと撮影場所は決まるのです。そうなる所そこには富士山に魅せられたカメラマンがぞろぞろと集結し、挨拶の一つ二つ交わす仲の顔見知り居たりします。そしてまた新たな写真友達が増えていくのです。

ちなみに昨日は、ちょうどダイヤモンド富士の見えそうなアパートで仕事でしたが、その時間には天井裏で換気扇交換でした・・・残念。



夏風邪

どこからか貰ってきたせき風邪が、家族ほぼ全員にうつりまして、皆ゲホゲホとっております。この時期の風邪はとても長引くイメージがあり、気を付けてはいたのですがやはり血の繋がっている人間同士では、抗体が近いのか全員満遍なくかかってしまいました。市販薬も病院で処方してもらった薬も効果はイマイチで、どうしても喉の痛みが治まりません。特に夜中はせき込んで痰が詰まり、何回も起きてしまいます。おまけにここ数日気温が高く、夜中に窓を開けていたのですが、どうも実際の夏場程湿度は高くないため、外の空気では喉が乾燥してしまうのです。そしてよりせき込んで喉が荒れてしまいます。一度このサイクルに入ってしまうとなかなか治ってくれません。加湿器を付けてみたり、咳に効くというお茶を飲んでみたり、一通り喉によさそうなことを試すばかりです。あんまり気にしすぎるのもよくないのかもしれませんが、喉を使わない日はないのでどうしても気になってしょうがない。朝起きたらいきなり良くなっていたりしないかと淡い期待をしてしまいます。

季節を先取りするのはいいのですが、どうもこのような物を先取りされては、調子を崩すばかりです。勘弁してほしいものです。南の方ではもうすでにスイカがとれるようで、少しまだ高いですが母が買ってきてくれました。スイカには炎症を抑える作用があるらしいので、ちょうどよかったかもしれませんね。



正樹



ひとつひとつ



若い時には感じなかった老年故の不具合が、年々顕著になってきました。動作がのろいので、予定通りに用事をこなせず、焦る・いらつくの悪循環です。

先日、以前所属していたコーラスグループの発表会で受付を頼まれました。近隣からメンバーの知人、友人が足を運んでくださいました。その時、旧知の共に久しぶりにお会いしました。彼は、いつもビデオ撮影を自発的に引き受け、足を運んでくれます。その彼はといいますと、隣町にまでお出ましになるというのに、お庭を散歩なさる様な軽装です。私より少しお若い方ですが、種々のIT機器を使いこなし、その他にも一つ「そば打ち会のリーダー」二つ「パン作り」三つ「コーラス」今度は飾り寿司に挑戦なさるといふ。

「えーっ、よくそんなに出来るね！」と問う私に彼は「ひとつひとつやるだよお！」と仰っていました。何事にも直ぐ焦る私です。「そうだね、ひとつひとつ、そして軽々とね。」友から頂いた当たり前なメッセージでした。

栗原



お茶

令和元年5月の爽やかな風の中、とはいきませんが、毎年恒例のお茶摘みを2回に分けてやりました。手摘みではなく二人用の機械でお茶の葉を刈りとりします。こさがあるのでお茶の生長に差がある為、一度にはできません。以前は手摘みでした。MAXで20人ほどの時もありました。手数とはいえ、ほぼ1日の作業、来て頂いているので、おやつにお昼を準備するとなると結構な頭と体の回転です。お茶やさんの予約を取らないと受け付けませんし、仕事もしているので、休みを考え、おまけに天候に左右されるとなると、ストレスしかありません。機械ですと2~3時間で終わります。量はありませんが、欲を出さなければいいわけです。しかしながら、今年は、いやいや近年は天候不順でお茶の芽が出る頃霜が降りたり、寒かったりと、なかなか思うようには行きません。其れに加え今年は前の日に、私が風邪らしき熱をだし、夕方には体の節々が痛くなってきた。まずい！！体温計は37度、もう一度計るともっと上がりそうなので数字をださず、ここ最近風邪薬を飲んでなかったの、主人に熱に効く薬を買ってきてもらい、薬でごまかした。幸い、翌日はその薬が熱に効き、身体が動くうちにとお茶を刈りました。ともかく、このお茶を終わらせないと、という仕事感覚の使命感です。みなさんそうなのでしょうか。爽やかにお茶摘みをしたことはありません。毎年毎年、こんな感じのお茶摘みです。お茶やさんも毎年、目を吊り上げて仕事をしているのに今年は余裕の顔で、余裕じゃないですか、と声をかけたところ『少ないからねえ』。といいんだか悪いんだか・・・お茶に振り回される5月です。

ねがみ

